

会 議 概 要 報 告

1. 会議の名称	令和5年度第2回潟上市自殺対策計画検討委員会
2. 開催日時・場所	令和6年2月22日
3. 委員等の人数	12人
4. 出席委員等の人数	9人
5. 議題	(1) 潟上市の自殺の現状について (2) 潟上市自殺対策計画第2期について (3) 各種取組の進捗状況について
6. 傍聴者の数	0人
7. 会議資料の名称	資料1 潟上市自殺対策計画第2期（案） 資料2 潟上市自殺対策計画進捗確認シート 資料3 令和5年度心はればれゲートキーパー養成講座 アンケート集計結果 資料4 弁護士による無料困りごと相談について
8. 会議の概要	<p><会議要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察や消防、市をはじめ、自治会や社会福祉協議会などの地域全体で連携して自殺対策に取り組んでほしい。 ・成人については年齢の幅が広いため、年代を分けて分析し、対象を絞り込んでアピールすることが効果的ではないか。 ・策定した計画を広く市民に周知してほしい。 <p><委員からの主な質問や意見></p> <p>(1) 潟上市の自殺の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺の原因が「不詳」が多くなっている。事務局では何か把握しているか。 →詳細について、行政では把握する方法がありません。 <p>(2) 潟上市自殺対策計画第2期について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑・意見等なし。 <p>(3) 各種取組の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2の基本施策2「職員に向けた心はればれゲートキーパー研修」について、目標値が「全職員の70%以上の受講」になっているが、実績が53.7%になっている。もっと積極的に目標を達成するようにしたほうがいいのではないか。 →今年度から、心はればれゲートキーパー研修がeラーニングで受講できるようになりました。集合形式の研修に出席できない職員については、eラーニングにより受講するよう周知し、受講率アップにつなげていきます。 ・資料4の「4. ①弁護士相談をどのように知りましたか」の回答が、「その他」が39.5%となっているが、どのようなものが含ま

	<p>れているのか。</p> <p>→社会福祉協議会や警察からの紹介が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談を受けても悩みを解決できないことが多いが、話を聞いてあげるだけでも、相談者が悩んでいる内容が整理されて気持ちが楽になることがある。 ・「こころの健康相談統一ダイヤル」を知っている率が一番高いのが中学生になっている理由は何か。 <p>→「こころの健康相談統一ダイヤル」の連絡先が書かれたプリントが学校で配布されていることから、このような結果になったと考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生と比べて、成人は年齢の幅が広い。成人の中でも、どの年代が各相談機関について認知しているか分析することで、どの年代にアピールしていくかを絞り込むことができると考える。 ・計画策定後、どのように市民へ周知して自殺者を減らすかが重要になる。
9. その他	